



2010年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設され、今年で6年目を迎え、2011年3月末時点で180名の卒業生を社会に送り出すことができた。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。

私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のホームページ (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2011a.html>) で公開している。私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、将来私たちが教育した学生を受け入れていただくことになる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。私たち教員は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院への関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。

私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

最後に、今年3月11日の東日本大震災について触れてみたい。今回の地震は千年に一度とも言われる大きな地震であり、今年4月に予定されていた片平キャンパスへの移転を大幅に遅らせることになった。学生諸君は、短答式試験直前の期間にも関わらず不自由な環境の中で学習することを余儀なくされた。しかし、関係者の方々のご尽力により5月末時点でやっと新しいキャンパスへの移転を行うことができた。この場を借りて、私たちがサポートしていただいた関係者の方々に御礼を述べたい。新しいキャンパスで学生は勉学に励み、私たち教員は教育・研究に専心することが皆様への恩返しと考えている。

今回の地震では2万人以上の死者・行方不明者がいると言われている。最後に、今回の大震災の犠牲になられたこれらの方々に対して哀悼の意を述べたい。

2011年6月8日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2011年1月11日より受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」(巻末資料1)

②「会計大学院の授業に関するアンケート」(巻末資料2)

両アンケートともに無記名であり、①は1学生につき1回限りの回答とした。②は履修者が5名以上である全ての講義について実施し(講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施)、学生は受講している講義毎に回答を行っている。

本報告書では、まず①のアンケートの集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析を行い、問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、②のアンケート結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。

本報告書では、アンケートにより得られたデータを可能な限り数量的・客観的に分析したいと考えている。そこで、①における自由記入欄の内容については、次年度以降にカリキュラム編成を行う際の参考とし、重要と考えられる意見に対してのみ若干のコメントを行いたい。また、②における科目毎のアンケートの集計結果(アンケート質問項目17の自由質問を含む)と自由記入欄の記載内容は担当教員に直接報告されており、ワークショップ委員会では、これが次年度以降の講義内容の充実に資することを期待している。

3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2010年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修している「国際会計基準」（会計大学院生の履修者29名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は21であり、会計大学院の在籍学生数の1/3程度であるため、会計大学院全体の動向を反映したものとは言い切れないが、今後のカリキュラム編成の参考材料にはなり得るものとする。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、開学当初からの推移を示す。2005年度と2006年度には、前期にもカリキュラムについてのアンケートを行っているが、紙面の大きさを考え、ここでは後期実施分のみ示すこととする。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1は受講者属性を問うものであり、本アンケート回答者の約90%が会計大学院学生であった。したがって、本アンケート結果は当会計大学院学生のカリキュラムに対する声を反映しているものと考えられる。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010
適切である	11.11%	42.00%	32.79%	20.00%	26.19%	50.00%
ほぼ適切である	11.11%	36.00%	34.43%	50.00%	45.24%	40.00%
どちらともいえない	44.44%	16.00%	14.75%	16.67%	19.05%	5.00%
やや不適切である	0.00%	2.00%	11.48%	13.33%	7.14%	5.00%
不適切である	33.33%	4.00%	6.56%	0.00%	2.38%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	61	30	42	20

設問3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010
適切である	0.00%	28.00%	16.67%	10.00%	21.43%	31.58%
ほぼ適切である	33.33%	20.00%	25.00%	30.00%	28.57%	26.32%
どちらともいえない	11.11%	22.00%	26.67%	26.67%	28.57%	15.79%
やや不適切である	33.33%	24.00%	18.33%	26.67%	19.05%	15.79%
不適切である	22.22%	6.00%	13.33%	6.67%	2.38%	10.53%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	60	30	42	19

設問4：オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010
5回以上	33.33%	6.12%	9.84%	6.67%	0.00%	25.00%
4回または3回	11.11%	14.29%	13.11%	16.67%	4.76%	10.00%
2回	11.11%	16.33%	26.23%	13.33%	16.67%	0.00%
1回	22.22%	14.29%	16.39%	10.00%	11.90%	10.00%
利用しなかった	22.22%	48.98%	34.43%	53.33%	66.67%	55.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	49	61	30	42	20

設問5：セメスター開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010
役に立った	11.11%	18.00%	38.33%	30.00%	23.81%	40.00%
まあまあ役に立った	22.22%	32.00%	23.33%	26.67%	47.62%	5.00%
どちらともいえない	11.11%	18.00%	15.00%	23.33%	26.19%	30.00%
あまり役に立たなかった	22.22%	14.00%	10.00%	16.67%	2.38%	5.00%
役に立たなかった	33.33%	18.00%	13.33%	3.00%	0.00%	20.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	60	30	42	20

設問 6：GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010
適切である	0.00%	14.00%	18.03%	10.00%	7.14%	25.00%
ほぼ適切である	33.33%	16.00%	24.59%	33.33%	30.95%	15.00%
どちらともいえない	55.56%	38.00%	29.51%	36.67%	38.10%	55.00%
やや不適切である	0.00%	16.00%	16.39%	13.33%	14.29%	5.00%
不適切である	11.11%	16.00%	11.48%	6.67%	9.52%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	50	61	30	42	20

設問 7：受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010
5 時間以上	11.11%	32.65%	35.00%	43.33%	34.15%	40.00%
4-5 時間	0.00%	16.33%	20.00%	20.00%	21.95%	5.00%
3-4 時間	0.00%	8.16%	16.67%	6.67%	9.76%	25.00%
1-3 時間	44.44%	28.57%	15.00%	16.67%	12.20%	5.00%
していない	44.44%	14.29%	13.33%	13.33%	21.95%	25.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	49	60	30	41	20

設問 8：e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010
役に立った	55.56%	62.50%	56.67%	58.62%	57.14%	60.00%
まあまあ役に立った	22.22%	33.33%	23.33%	41.38%	23.81%	35.00%
どちらともいえない	11.11%	2.08%	15.00%	0.00%	16.67%	5.00%
あまり役に立たなかった	11.11%	2.08%	1.67%	0.00%	2.38%	0.00%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	3.33%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	48	60	29	42	20

設問 9：在学中の受験を考えていますか。

選択項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010
考えている	55.56%	72.92%	67.24%	82.76%	71.43%	63.16%
まだ決めていない	11.11%	4.17%	6.90%	6.90%	9.52%	10.53%
考えていない	33.33%	22.92%	25.86%	10.34%	19.05%	26.32%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	9	48	58	29	42	19

設問 10：OB 会について（この設問は 2007 年度に追加したものである。）

選択項目	2007	2008	2009	2010
賛成	51.72%	66.67%	57.14%	80.00%
反対	6.90%	3.70%	2.38%	5.00%
分からない	41.38%	29.63%	40.48%	15.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	58	27	42	20

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果を基に、特徴が顕著なものについて問題点を明らかにし、今後の対応を示す。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答をしてもらった。「適切である」と「ほぼ適切である」の合計は90%で、開学以来最高の値となった。また、「やや不適切である」と「不適切である」の合計は5%であり、これは開学以来最小の値である。この数値は大変好ましいものではあるが、過去のアンケートに比べて回答数がかなり少なかったことを考慮すれば、会計大学院生全体としては科目配置について概ね満足しているといった解釈にとどめた方が良いだろう。結果としては一定の評価が得られたと言えるため、今後ともこうした傾向が続くようカリキュラムの改善を図りたい。

設問3（セメスター間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が約5割であった。一方、「やや不適切である」と「不適切である」の合計が約2割であり、ここ数年で顕著に下がっているとは見られないため、改善が望まれる。今後、個人面談等を通じて、具体的などのような点が不適切とされたかその内容を調査していきたいと考えている。

設問4（オフィスアワー）については、昨年度までとはかなり異なる結果になった。5回以上オフィスアワーを利用した学生が25%に達するといったように、利用頻度が上がった。ただ、今回のアンケートは回答者がかなり少なかったことと全く利用しない学生も5割程度いることを考えると、会計大学院生全体としては開学以来低下傾向にあったオフィスアワーの利用頻度が下げ止まったという程度の解釈が妥当だろう。いずれにせよ、この結果はある程度好ましいと言えるので、今後ともこうした傾向が続くようオフィスアワーのあり方を考えていきたい。

設問5（履修指導）については、昨年度までは、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が増加し、「余り役に立たなかった」と「役に立たなかった」の合計が減少するという傾向にあった。しかし、今回のアンケート結果ではその傾向が続かず、「役に立たなかった」が2割に達したように履修指導をあまり評価しない学生が増加したことが伺える。履修指導はマニュアルが整備されているため体系的に行えていると考えられるが、反面、形式的な指導になっているのかもしれない。また、学生の履修指導に対するニーズが変化したとも考えられるので、学生のニーズを探っていきたい。

設問7（受験勉強にかける時間）では、「5時間以上」が40%という高い数値になった一方、「していない」も25%と高く、かなりばらつきが見られた。こうしたばらつきは昨年度も見られたが、今年度はより顕著になったようである。この結果は、会計大学院には公認会計士試験に合格することだけではなく様々な目的を持った学生がいるということを示唆するだろう。本会計大学院の設立趣旨が単なる受験勉強の支援ではなく会計の専門家として活躍できる人材の育成であることを考えれば、こうした多様な学生が在籍することは好ましいと言えるかもしれない。ただ、「していない」と答えた学生が受験勉強以外の学習や活動をきちんと行っているのか、個人面談等でフォローしていく必要があると思われる。

設問9（在学中の受験）では、「考えている」が3年連続して減少し約63%と低い値となり、「考えていない」が3年連続で増加して約26%と高くなった。「考えていない」と答えた学生が会計大学院修了後に受験をするつもりなのかそもそも受験をするつもりが無いのかはこの設問だけでは解らないが、設問7の結果も考慮すれば、学生の目的が多様になったとも考えられる。こうした傾向が今後も続くのか、動向に注意したい。

4.「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

2010年度後期における開講講義数は42科目であり、そのうち履修者が5名以上の講義（26科目）についてアンケートが実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
コストマネジメント	8	7
財務諸表	40	25
連結財務諸表	18	16
ビジネス・プレゼンテーション1	11	4
ビジネス・プレゼンテーション2	6	6
原価計算2	33	26
簿記2	41	24
情報システム設計	16	15
監査計画の編成法1	21	18
内部統制の実務	16	13
財務諸表分析	22	19
上級財務諸表分析	11	6
事例研究（法人税法）	11	11
監査制度	19	8
上級監査制度	18	11
組織と人材	7	3
会計職業倫理	9	3
事例研究（管理会計）	7	5
国際会計基準	29	27
事例研究（国際会計基準）	14	13
マーケティング	8	6
金融論	10	8
情報システム管理	6	5
消費税法	13	6
上級会社法	9	9
公会計	26	17
合計	429	311

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、延べ履修者数429名に対して311名から回答を得た。アンケートの回収率は72.49%であり、前回（2010年度前期，71.92%）とほぼ同じ水準で7割を越える回収率であった。

なお、質問項目17は科目担当教員が独自に行う質問であり、アンケートの集計には含めていない。

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。併せて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	120	242	8	11	34	80	177	211	206	181	190	131	202	120	168	8
4	143	41	2	7	11	135	86	66	66	77	76	95	74	87	76	14
3	13	5	24	24	56	75	34	21	25	31	31	66	20	61	43	43
2	11	9	44	52	54	11	5	3	5	11	4	6	5	20	7	144
1	14	5	122	148	99	3	2	1	1	3	0	4	1	12	3	33
0	3	-	102	58	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	59
合計	304	302	302	300	298	304	304	302	303	303	301	302	302	300	297	301
平均値	4.10	4.68	1.09	1.36	1.98	3.91	4.42	4.60	4.55	4.39	4.50	4.14	4.56	3.94	4.34	1.81
中央値	4.00	5.00	1.00	1.00	2.00	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00	5.00	4.00	5.00	2.00
最頻値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2
標準偏差	1.07	0.79	1.13	1.17	1.51	0.86	0.80	0.69	0.74	0.88	0.73	0.91	0.72	1.11	0.88	1.20

表2：アンケートの基本統計量

所見

設問3（予習）～設問5（宿題）と設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向は過去のアンケートと同じであり、会計大学院の講義に対する評価は良好であると言えるだろう。一方、設問3～5からは学生の勉強時間が少ないことがうかがえる。この傾向もまた過去と同じであり、好ましくない状態である。なお、今年度のアンケートでは過去に行ったアンケートでは計算していなかった標準偏差を計算しているが、設問3～5の標準偏差はそれ以外の設問の標準偏差より概ね高い値をとっている。このことは、会計大学院の講義に対する評価は多くの学生が高い評価でままとまっているのに対し、勉強時間は多い学生と少ない学生でばらつきが生じていると解釈できる。よって、勉強時間の少ない学生の底上げを図ることが必要だろう。

4.3. 設問ごとの相関

質問項目間の相関関係をみるために、次のような表を作成した。設問 16 の資格は複数回答が可能となっているが、相関係数の計算上、複数回答者については複数の数値を合計した値を用いている。例えば、2 と 3 の資格を持つ回答者は資格の値を 5 として相関係数を計算している。なお、表 2 の計算の際には、資格についてこのような合計はしていない。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.000															
2 出席	-0.043	1.000														
3 予習	0.030	0.126	1.000													
4 復習	-0.015	0.041	0.581	1.000												
5 宿題	0.073	0.005	0.469	0.370	1.000											
6 理解	0.099	0.109	0.131	0.096	0.055	1.000										
7 難易度	0.042	-0.039	0.015	0.014	0.091	0.472	1.000									
8 教員準備	0.000	-0.003	-0.028	-0.052	0.003	0.362	0.481	1.000								
9 プレゼン	-0.003	-0.028	-0.008	0.029	0.078	0.478	0.457	0.702	1.000							
10 教材	0.011	-0.080	0.045	0.005	0.100	0.371	0.526	0.691	0.529	1.000						
11 評価方法	-0.042	-0.041	0.013	-0.055	0.077	0.303	0.498	0.541	0.484	0.584	1.000					
12 シラバス	0.051	-0.017	0.015	0.024	0.048	0.352	0.364	0.410	0.389	0.464	0.469	1.000				
13 教員評価	0.040	-0.061	0.015	-0.040	0.021	0.407	0.597	0.716	0.682	0.697	0.600	0.449	1.000			
14 対試験	-0.023	-0.015	0.132	0.219	-0.036	0.383	0.421	0.339	0.368	0.376	0.304	0.420	0.386	1.000		
15 キャリア	0.115	0.007	0.160	0.089	0.181	0.302	0.537	0.517	0.446	0.483	0.461	0.421	0.619	0.431	1.000	
16 資格	0.061	0.010	0.023	0.013	0.047	-0.030	0.014	0.001	-0.024	-0.135	0.082	-0.021	0.005	0.072	-0.095	1.000

表 3：質問項目数の相関関係

所見

- ・設問 3（予習）～設問 5（宿題）の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の勉強時間に関するもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。この傾向は過去のアンケートと同じである。
- ・設問 6（理解）～設問 15（キャリア）の間で全般的に高い正の相関が見られる。これらの設問は会計大学院の講義に対する評価に関するものと考えられ、高い評価をしている学生は多くの設問で概ね高い評価をしていることがうかがえる。なお、設問 6～15 で最も高い相関係数は設問 8（教員準備）と設問 13（教員評価）の間の 0.716 であり、学生は教員の講義に対する準備状況をかなりの程度勘案して教員を評価していると思われる。
- ・設問 3～5 の設問群と設問 6～15 の設問群の間ではかなり相関係数が低かった。これは、かなりおおざっぱに言えば、会計大学院の勉強に時間を使うかどうか（設問 3～5）と会計大学院の講義に対する評価（設問 6～15）はあまり関係が無いということである。この結果は様々な解釈ができるので一概に好ましいかそうでないかを言うことはできないが、勉強時間を多く使っても評価があまり上がらないと解釈すれば問題があると言えるだろう。一方、勉強時間が少なくても評価が下がらないととらえれば会計大学院の講義はそれだけ“わかりやすい”とも考えられる。

上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告については、会計大学院のホームページを参照されたい (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2011a.html>)。)

4.4. 設問ごとの集計結果と所見

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、過去4年間の推移を示す。なお、2010年度後期のアンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
公認会計士コース（2年）				20.95%	33.85%	18.53%	44.44%	39.47%
公認会計士コース（1年）	93.01%	93.55%	89.78%	74.66%	57.80%	75.88%	41.30%	47.04%
高度会計職業人コース	0.24%	0.00%	0.54%	0.00%	0.44%	0.59%	0.97%	4.28%
経済経営学専攻	1.93%	3.46%	3.49%	3.04%	3.52%	2.65%	4.35%	3.62%
経済学部	4.82%	3.00%	6.18%	1.35%	4.40%	2.35%	8.70%	4.61%
その他	-	-	-	-	-	-	0.24%	0.99%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	415	434	372	296	455	340	414	304

設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
90% 以上	88.78%	83.26%	85.29%	71.09%	79.39%	80.42%	85.92%	80.13%
89-70%	7.40%	8.94%	8.29%	17.69%	12.50%	12.17%	10.44%	13.58%
69-50%	0.95%	4.13%	2.67%	5.78%	3.95%	2.97%	1.21%	1.66%
49-20%	1.43%	0.92%	1.87%	3.40%	1.32%	2.97%	0.97%	2.98%
20%未滿	1.43%	2.75%	1.34%	1.35%	2.63%	1.48%	1.46%	1.66%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	419	436	374	294	456	337	412	302

設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
5時間以上	1.66%	2.52%	4.05%	3.69%	3.30%	2.92%	6.02%	2.65%
4-5時間	1.19%	1.60%	2.43%	2.35%	1.54%	2.05%	3.86%	0.66%
3-4時間	4.28%	4.58%	6.76%	8.72%	4.40%	4.68%	5.54%	7.95%
2-3時間	14.25%	10.76%	17.30%	14.43%	12.75%	14.91%	12.53%	14.57%
1-2時間	34.44%	41.88%	34.86%	33.22%	47.91%	41.81%	41.69%	40.40%
1時間未滿	44.18%	38.67%	34.59%	37.58%	30.11%	33.63%	30.36%	33.77%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	421	437	370	298	455	342	415	342

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
5時間以上	4.75%	4.79%	4.29%	4.68%	4.16%	4.40%	7.00%	3.67%
4-5時間	4.51%	2.74%	2.95%	5.35%	1.75%	4.32%	3.38%	2.33%
3-4時間	7.84%	9.59%	12.33%	11.04%	8.97%	9.71%	6.04%	8.00%
2-3時間	24.23%	22.37%	18.23%	15.38%	22.10%	27.34%	25.85%	17.33%
1-2時間	33.73%	40.41%	41.02%	44.15%	50.98%	53.24%	41.55%	49.33%
1時間未滿	24.94%	20.09%	21.18%	19.40%	12.04%	22.66%	16.18%	19.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	421	438	373	299	457	341	414	300

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
5時間以上	8.15%	8.08%	8.74%	11.15%	7.08%	19.17%	12.62%	11.41%
4-5時間	9.35%	6.24%	5.74%	5.41%	3.98%	5.60%	6.80%	3.69%
3-4時間	10.55%	10.85%	12.02%	14.19%	13.94%	9.44%	8.74%	18.79%
2-3時間	19.18%	18.48%	21.58%	20.61%	24.56%	21.24%	23.79%	18.12%
1-2時間	27.58%	29.56%	33.61%	29.39%	37.39%	26.55%	33.74%	33.22%
1時間未滿	25.18%	26.79%	18.31%	19.26%	13.05%	17.99%	14.32%	14.77%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	417	433	366	296	452	339	412	298

設問 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
理解できた	18.48%	19.82%	24.18%	22.48%	30.35%	24.12%	26.75%	26.32%
ほぼ理解できた	50.71%	52.16%	51.36%	47.65%	47.38%	50.88%	47.23%	44.41%
どちらともいえない	22.99%	21.64%	18.21%	22.82%	18.12%	21.76%	21.45%	24.67%
あまり理解できなかった	6.40%	5.92%	4.08%	5.70%	3.71%	3.24%	4.10%	3.62%
理解できなかった	1.42%	0.46%	2.17%	1.34%	0.22%	0.00%	0.48%	0.99%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	422	439	368	298	458	339	415	304

設問 7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
適切	51.67%	53.86%	56.84%	45.00%	59.39%	54.25%	59.18%	58.22%
ほぼ適切	27.27%	31.36%	29.22%	36.33%	28.17%	31.38%	26.57%	28.29%
どちらともいえない	17.22%	12.27%	11.26%	16.00%	9.83%	10.85%	10.63%	11.18%
やや不適切	3.11%	1.14%	1.61%	2.00%	2.40%	2.35%	2.90%	1.64%
不適切	0.72%	1.36%	1.07%	0.67%	0.22%	1.17%	0.72%	0.66%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	418	440	373	300	458	341	414	304

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
十分	66.67%	67.05%	65.59%	55.67%	72.11%	66.47%	71.29%	69.87%
ほぼ十分	21.43%	18.08%	20.43%	29.33%	19.39%	22.06%	19.71%	21.85%
どちらともいえない	8.10%	8.92%	7.80%	10.67%	5.45%	6.18%	6.08%	6.95%
やや不十分	2.14%	4.58%	2.42%	3.00%	2.61%	2.94%	2.19%	0.99%
不十分	1.67%	1.37%	3.76%	1.33%	0.44%	2.35%	0.73%	0.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	420	437	372	300	459	340	411	302

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
良かった	60.57%	59.13%	61.29%	49.83%	66.45%	63.93%	69.34%	67.99%
まあまあ良かった	19.71%	21.00%	22.58%	29.10%	22.88%	22.87%	18.73%	21.78%
どちらともいえない	10.45%	11.42%	9.14%	16.05%	7.63%	7.92%	8.03%	8.25%
やや悪かった	5.46%	5.94%	4.57%	4.68%	1.74%	4.11%	2.68%	1.65%
悪かった	3.80%	2.51%	2.42%	0.33%	1.31%	1.17%	1.22%	0.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	421	438	372	299	459	341	411	303

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
適切	51.31%	58.58%	54.84%	46.31%	62.14%	59.53%	63.75%	59.74%
ほぼ適切	28.50%	23.57%	25.54%	32.89%	23.41%	24.34%	22.87%	25.41%
どちらともいえない	14.96%	11.67%	12.10%	15.77%	9.63%	12.32%	9.25%	10.23%
やや不適切	3.33%	3.89%	5.65%	4.03%	3.72%	3.52%	2.43%	3.63%
不適切	1.90%	2.29%	1.88%	1.01%	1.09%	0.29%	1.70%	0.99%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	421	437	372	298	457	340	411	303

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
適切	56.06%	57.08%	58.76%	46.64%	60.48%	57.18%	61.31%	63.12%
ほぼ適切	28.74%	29.45%	26.42%	32.21%	23.14%	30.50%	26.52%	25.25%
どちらともいえない	10.69%	10.05%	11.59%	18.46%	13.10%	8.80%	9.00%	10.30%
やや不適切	2.38%	2.74%	2.16%	1.68%	2.84%	2.64%	1.46%	1.33%
不適切	2.14%	0.68%	1.08%	1.01%	0.44%	0.88%	1.70%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	421	438	371	298	457	341	411	301

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
役に立った	36.58%	37.67%	37.74%	36.91%	48.47%	46.63%	50.36%	43.38%
まあまあ役に立った	29.69%	30.59%	31.54%	31.88%	27.73%	26.10%	26.28%	31.46%
どちらともいえない	24.94%	21.00%	24.26%	23.49%	19.65%	21.70%	17.76%	21.85%
あまり役に立たなかった	5.23%	7.08%	2.43%	5.03%	3.28%	2.93%	3.41%	1.99%
役に立たなかった	3.56%	3.65%	4.04%	2.68%	0.87%	2.64%	2.19%	1.32%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	421	438	371	298	458	341	411	302

設問 13：総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
評価できる	64.13%	61.87%	65.05%	49.16%	68.49%	66.57%	64.63%	66.89%
まあまあ評価できる	23.28%	24.20%	22.31%	34.68%	20.79%	22.87%	25.37%	24.50%
どちらともいえない	7.13%	9.36%	6.45%	13.13%	8.32%	6.74%	7.56%	6.62%
あまり評価できない	4.04%	2.97%	4.30%	2.02%	2.19%	1.76%	1.71%	1.66%
評価できない	1.43%	1.60%	1.88%	1.01%	0.22%	2.05%	0.73%	0.33%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	421	438	372	297	457	341	410	302

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
役立つ	44.87%	43.58%	45.53%	45.61%	59.92%	33.53%	46.32%	40.00%
まあまあ役に立つ	29.59%	25.23%	27.91%	28.72%	25.38%	37.94%	28.68%	29.00%
どちらともいえない	18.62%	21.10%	19.51%	16.22%	11.60%	20.59%	17.16%	20.33%
あまり役に立たない	4.77%	5.05%	4.61%	5.07%	1.97%	6.18%	5.39%	6.67%
役に立たない	2.15%	5.05%	2.44%	4.39%	1.53%	1.76%	2.45%	4.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	419	436	369	296	457	340	408	300

設問 15：この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか。

選択項目	2007 前期	2007 後期	2008 前期	2008 後期	2009 前期	2009 後期	2010 前期	2010 後期
役立つ	48.67%	56.75%	45.26%	50.00%	53.95%	53.24%	50.12%	56.57%
まあまあ役に立つ	28.09%	21.51%	27.64%	27.36%	29.39%	32.06%	28.99%	25.59%
どちらともいえない	19.85%	16.93%	21.41%	17.23%	14.69%	11.47%	16.22%	14.48%
あまり役に立たない	2.66%	2.52%	3.25%	3.38%	1.54%	2.35%	3.93%	2.36%
役に立たない	0.73%	2.29%	2.44%	2.03%	0.44%	0.88%	0.74%	1.01%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
総数	413	437	369	296	456	340	407	297

4.5. 自己評価と今後の課題

・学生の学習（設問 2～5）について

設問 2 については、過去のアンケート結果とほぼ同様のものであった。約 80% の学生が 90% 以上の出席率となっており、好ましい結果と言えるだろう。設問 3～5 においてもこれまでの結果と同じ傾向が見られたが、こちらはあまり好ましくない傾向が続いている。学生の勉強時間はかなり少ないと言え、知識を覚えるだけの勉強になってしまっている可能性がある。実際に会計の専門家として就職した際には、単に覚えた知識ではなく、時間をかけて理解した理論や考え方こそが役に立つと考えられる。このことはこれまでも個人面談等で学生に説明してきたがなかなか浸透しないようである。ただ、設問 3～5 の「1 時間未満」と答えた学生の割合は 2007 年度から今年度までのおおまかな傾向としては減っていることで、極端に勉強時間が少ない学生が少なくなっているという意味では一定程度学生に伝わっているのかもしれない。

・教員への評価（設問 6～13）について

これらの設問では、いずれも概ね過去と同じ結果が得られ、教員への評価が高い状態で推移していることが解った。なお、これらの設問は全て 5 段階で評価を聞いているが、上位 3 段階の評価の割合は年によって増えもするし減りもしているものの下位 2 段階の評価の割合は過去 4 年間で大部分が着実に減少傾向にある。これはかなり好ましい結果であり、FD 等の機会を使って教員間で教授法を議論した成果が表れているのかもしれない。

・講義の内容（設問 14, 15）について

設問 14, 15 共に、過去と同様好ましい結果が得られた。公認会計士試験対策としても、公認会計士になってからのキャリアにおいても、会計大学院の講義は一定の役割を果たしているようである。公認会計士試験対策としての方がキャリアにおけるよりも「役立つ」の割合が低く全体的にやや低評価であるが、これは会計大学院の趣旨に沿うが試験に直接役立つものではない講義も開講しているので、ある程度はやむを得ないだろう。もちろん、試験対策をおろそかにするのは問題なので試験を意識して講義を組み立てる努力を続けるべきなのは言うまでもない。なお、キャリアとして役立つかどうかという質問は、現役の学生にするのも一定の意味はあるが、修了生に実際に役立ったかどうかを聞くことも重要だろう。本会計大学院も設立 7 年目に入り講義内容を事後的に評価できる修了生の数も増えてきたと思われるので、修了生へのアンケート調査を検討してもよいかもしれない。

5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄について、授業に関するものは科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見は担当教員へ報告し改善すべき点は改善を行うようお願いしている。よって、ここでは授業に関するものには特にコメントをしないが、全体的な傾向をいくつか挙げておく。

i) 実務上の実体験を交えた講義に対し、興味深いという評価が多かった。

ii) レジューメ等の配布資料の良し悪しに関する意見が多く、学生は資料を重視していることがうかがえる。

iii) 課題や試験を行うタイミングは、公認会計士試験の日程を考慮して欲しいという意見がいくつかあった。

こうした意見を講義の改善に役立ててもらえればと思う。

次に、カリキュラムに関するものについて言及する。カリキュラムについては、過去のアンケートでは会社法関連科目の充実を求める声が多かった。しかし、2008年度後期より上級会社法を新たに設置したためと考えられるが、今回はそうした意見は無かった。これについては学生の要望に応えられたと言えるだろう。一方、新たに日本語でのプレゼンテーションや Excel の使い方といったスキルを身に付けられる講義を要望する声があった。ただ、この意見は少数であったので、今後増えるようならその時点で対応を考えるのが良いかと思われる。

資料1：2010年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2010年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 高度会計職業人コース (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	本大学院で成績評価に用いている GPA は、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) していない (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体として e-mail, HP を用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院 OB 会を組織したいと考えています。OB 会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない <特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。>
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料2：2010年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2010年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 高度会計職業人コース (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5)90% 以上 (4)89-70% (3)69-50% (2)49-20% (1)20% 未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5時間以上 (4)4-5時間 (3)3-4時間 (2)2-3時間 (1)1-2時間 (0)1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5時間以上 (4)4-5時間 (3)3-4時間 (2)2-3時間 (1)1-2時間 (0)1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5)5時間以上 (4)4-5時間 (3)3-4時間 (2)2-3時間 (1)1-2時間 (0)1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5)理解できた (4)ほぼ理解できた (3)どちらともいえない (2)あまり理解できなかった (1)理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5)適切である (4)ほぼ適切である (3)どちらともいえない (2)やや不適切である (1)不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 (4) 公認会計士短答式 (3) 日商簿記1級 (2) 日商簿記2級 (1) その他 (0) 何も無い	複数回答可能です。複数回答をするときはマークシートの16～20の欄に1つずつマークして下さい。(1)については自由記入欄に具体的に記入して下さい。
21	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
22	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2010年度後期「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	9	45.00%
	公認会計士コース(1年)	9	45.00%
	高度会計職業人コース	1	5.00%
	経済経営学専攻	1	5.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	20	100.00%
設問2 基礎、展開、実践・応用科目の配置は適切だと思いますか。	適切である	10	50.00%
	ほぼ適切である	8	40.00%
	どちらともいえない	1	5.00%
	やや不適切である	1	5.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	20	100.00%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。	適切である	6	31.58%
	ほぼ適切である	5	26.32%
	どちらともいえない	3	15.79%
	やや不適切である	3	15.79%
	不適切である	2	10.53%
	合計	19	100.00%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数。	5回以上	5	25.00%
	4回または3回	2	10.00%
	2回	0	0.00%
	1回	2	10.00%
	利用しなかった	11	55.00%
	合計	20	100.00%
設問5 Semester開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。	役に立った	8	40.00%
	まあまあ役に立った	1	5.00%
	どちらともいえない	6	30.00%
	あまり役に立たなかった	1	5.00%
	役に立たなかった	4	20.00%
	合計	20	100.00%
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思いますか。	適切である	5	25.00%
	ほぼ適切である	3	15.00%
	どちらともいえない	11	55.00%
	やや不適切である	1	5.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	20	100.00%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか。	5時間以上	8	40.00%
	4-5時間	1	5.00%
	3-4時間	5	25.00%
	1-3時間	1	5.00%
	していない	5	25.00%
	合計	20	100.00%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか。	役に立った	12	60.00%
	まあまあ役に立った	7	35.00%
	どちらともいえない	1	5.00%
	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	20	100.00%
設問9 在学中の受験を考えていますか。	考えている	12	63.16%
	まだ決めていない	2	10.53%
	考えていない	5	26.32%
	合計	19	100.00%
設問10 OB会について	賛成	16	80.00%
	反対	1	5.00%
	分からない	3	15.00%
	合計	20	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

資料4：2010年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	120	39.47%
	公認会計士コース(1年)	143	47.04%
	高度会計職業人コース	13	4.28%
	経済経営学専攻	11	3.62%
	経済学部	14	4.61%
	その他	3	0.99%
	合計	304	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	242	80.13%
	89-70%	41	13.58%
	69-50%	5	1.66%
	49-20%	9	2.98%
	20%未満	5	1.66%
	合計	302	100.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	8	2.65%
	4-5時間	2	0.66%
	3-4時間	24	7.95%
	2-3時間	44	14.57%
	1-2時間	122	40.40%
	1時間未満	102	33.77%
	合計	302	100.00%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	11	3.67%
	4-5時間	7	2.33%
	3-4時間	24	8.00%
	2-3時間	52	17.33%
	1-2時間	148	49.33%
	1時間未満	58	19.33%
	合計	300	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	34	11.41%
	4-5時間	11	3.69%
	3-4時間	56	18.79%
	2-3時間	54	18.12%
	1-2時間	99	33.22%
	1時間未満	44	14.77%
	合計	298	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	80	26.32%
	ほぼ理解できた	135	44.41%
	どちらともいえない	75	24.67%
	あまり理解できなかった	11	3.62%
	理解できなかった	3	0.99%
	合計	304	100.00%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	177	58.22%
	ほぼ適切	86	28.29%
	どちらともいえない	34	11.18%
	やや不適切	5	1.64%
	不適切	2	0.66%
	合計	304	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	211	69.87%
	ほぼ十分	66	21.85%
	どちらともいえない	21	6.95%
	やや不十分	3	0.99%
	不十分	1	0.33%
	合計	302	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	206	67.99%
	ほぼ十分	66	21.78%
	どちらともいえない	25	8.25%
	やや不十分	5	1.65%
	不十分	1	0.33%
	合計	303	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	181	59.74%
	ほぼ適切	77	25.41%
	どちらともいえない	31	10.23%
	やや不適切	11	3.63%
	不適切	3	0.99%
	合計	303	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。	適切	190	63.12%
	ほぼ適切	76	25.25%
	どちらともいえない	31	10.30%
	やや不適切	4	1.33%
	不適切	0	0.00%
	合計	301	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	131	43.38%
	まあまあ役に立った	95	31.46%
	どちらともいえない	66	21.85%
	あまり役に立たなかった	6	1.99%
	役に立たなかった	4	1.32%
	合計	302	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。	評価できる	202	66.89%
	まあまあ評価できる	74	24.50%
	どちらともいえない	20	6.62%
	あまり評価できない	5	1.66%
	評価できない	1	0.33%
	合計	302	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	120	40.00%
	まあまあ役に立つ	87	29.00%
	どちらともいえない	61	20.33%
	あまり役に立たない	20	6.67%
	役に立たない	12	4.00%
	合計	300	100.00%
設問15 この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	168	56.57%
	まあまあ役に立つ	76	25.59%
	どちらともいえない	43	14.48%
	あまり役に立たない	7	2.36%
	役に立たない	3	1.01%
	合計	297	100.00%
設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当する物を選んで下さい。	税理士会計科目	8	2.66%
	公認会計士短答式	14	4.65%
	日商簿記1級	43	14.29%
	日商簿記2級	144	47.84%
	その他	33	10.96%
	何も無い	59	19.60%
	合計	301	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2010 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	千木良弘朗
委員	青木 雅明
委員	木村 史彦
委員	松田 康弘

会計大学院アンケート実施報告書 2010 年度後期

2011 年 6 月 8 日発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会